

IMS標準と法政大学における 活用事例

2016年 8月 25日 情報メディア教育研究センター

常盤 祐司 yuji.tokiwa.dc@hosei.ac.jp





e-Learning関連の国際標準

標準化のメリット

法政大学の現状

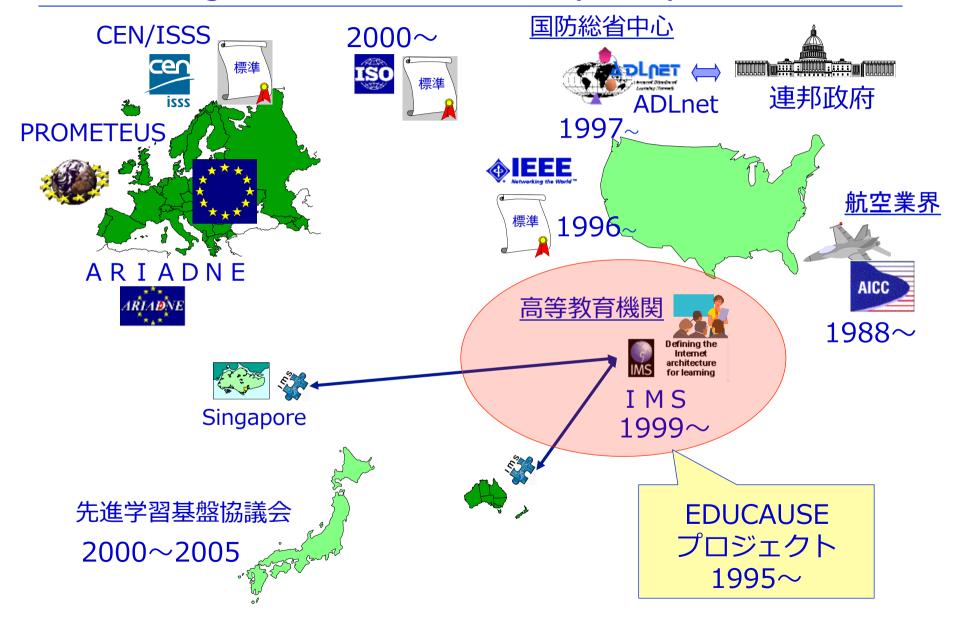
NGDLE



I nstructional Management Systems

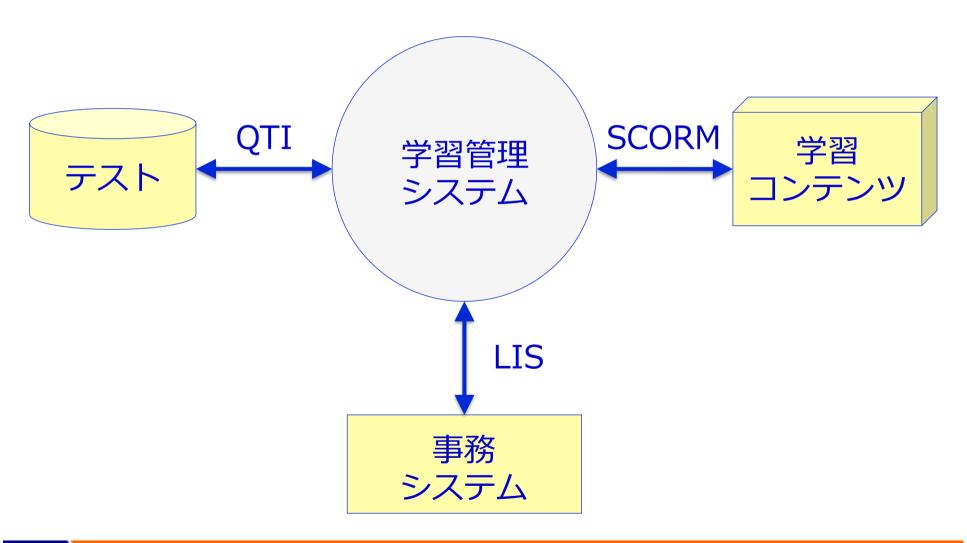


e-Learning関連国際標準化の動向 (2002)



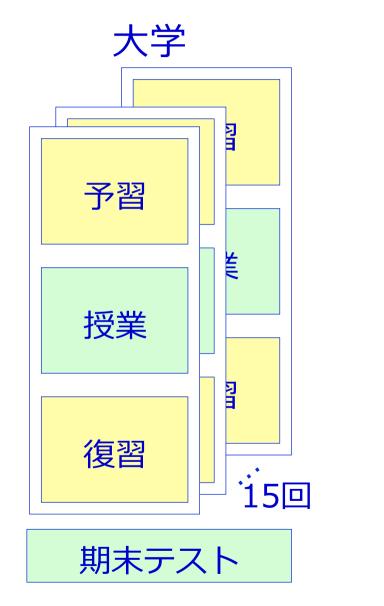


システムの細分化により参入障壁を低減





e-Learning利用 - 大学 vs. 企業









eLearning概要 - 大学 vs. 企業

	大学	企業
学習方法	学習することが本務	本務を抱えての学習
学習時間・場所	授業:固定 予習・復習:任意	任意
クラス		X
講師による授業		X
単位認定		X
教室	多数	会議室を流用
受講者/講師	数人~1000人	~100,000人
e-Learningシステム 位置づけ	教員支援	仮想的な講師
	教育の質向上、 教員事務効率化	人材育成、情報伝達



多様化する授業に対するシステム化動向

授業 Tool





- 反転授業
- Gamificationを取り入れた授業
- プレゼンテーション相互評価
- Digital Story Telling相互評価
- 建築デザイン作品相互評価
- プログラミング自習 など

授業 Tool

授業支援システム



授業 Tool





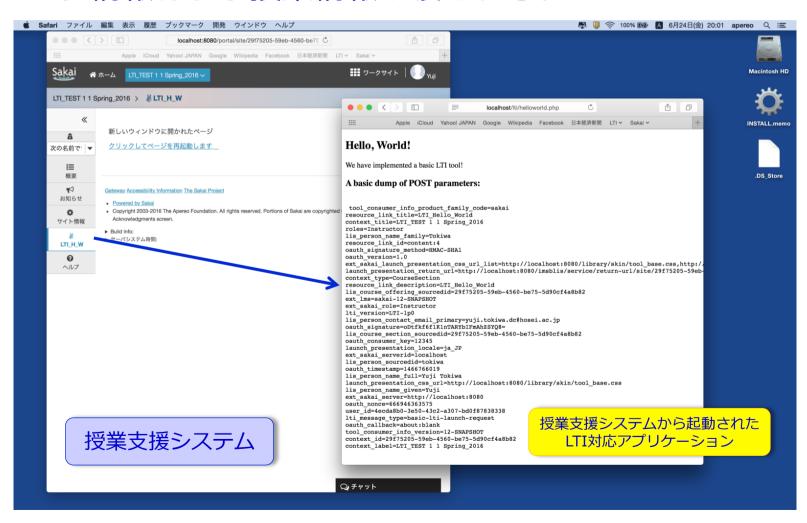
LTIによる認証・クラス情報連携





LTI事例

授業支援システムからLTIアプリケーションが起動され、 ユーザ情報および授業情報が渡される。





Caliperによる学習ログ収集





Next Generation Digital Learning Environment

- Interoperability & integration
- Personalization
- Analytics, advising, & learning assessment
- Collaboration
- Accessibility and universal design

EDUCAUSE



NGDLEを支えるIMS標準



